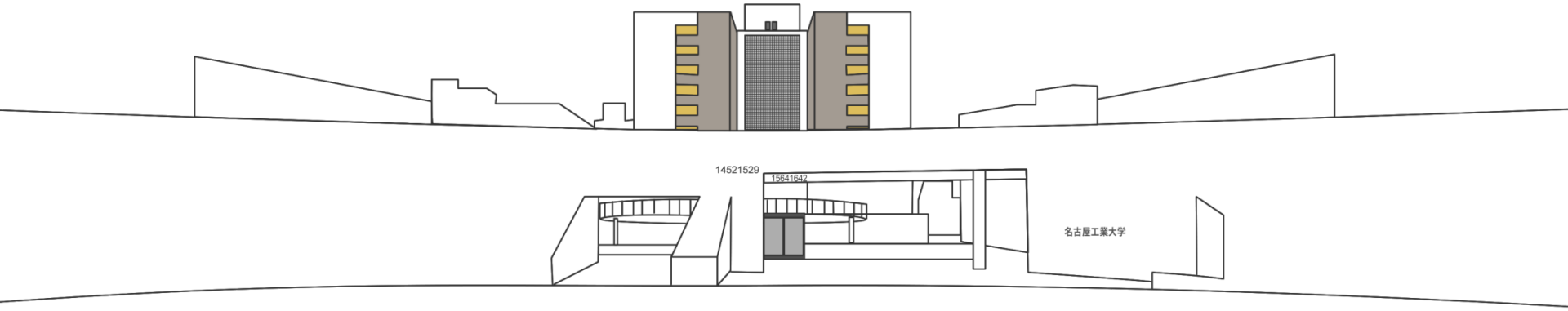
平成２６年９月２６日
第2回 SPARC Japan セミナー2014
「大学におけるOAポリシー：日本版OAポリシーモデル構築に向けて」

リエージュ大学から学ぶOAポリシー策定方針



国立大学法人
名古屋工業大学　学術情報課　林　和宏

大学概要

リエージュ大学
Université de Liège / University of Liège
学生数　20,000　教員数　2,800　職員数 1,300
総合大学（7学部/1大学院/1研究所）
http://www.ulg.ac.be/

名古屋工業大学
Nagoya Institute of Technology
学生数 5,700　教員数　340　職員数　175
工学系単科大学
http://www.nitech.ac.jp/

リポジトリ概要

ORBi　Open Repository and Bibliography
2008年公開（OA Policy 2007年より実施）
アイテム数　12万件
ダウンロード数　年間 372万件程度

名古屋工業大学学術機関リポジトリ
2008年公開（OA Policy 2012年より実施）
アイテム数　3659
ダウンロード数　年間28万件程度

リエージュ大学のOAポリシーの要点

We decided to made mandatory the full text for every scientific article since 2002.

To ensure that this obligation will be respected, we add the fact that only publications in the repository will be considered in any internal evaluation (promotion, financing etc…).

私たちは、2002年以降のすべての学術論文について、全文登録の義務化を決定しました。

この義務を確実にするため、リポジトリに登録された出版物だけが、学内評価（広報、補助金申請等）の対象になるという条項を追加しました。

リエージュ大学のOAポリシーの目的

大学の成果を知らせるため
研究者が研究成果の可視性を向上させることに資するため
コストを削減するため

“Green First” グリーンOAを優先する方針

自然にうまくいくわけではない。制度化が必要
Top down First, Bottom up comes easy later on
まずトップダウンで、そうするとボトムアップが容易に続いてくる。

ただ強制するのではなく、既にある多くの制度に組み込む。

リエージュ大学義務化の経緯

For me it was just a joke or a dream, but Rector Rentier sent this very unexpected response to me "OK, we'll do it!"

・図書館長が軽い気持ちで話した義務化の話に、学長が賛同して、実施に至った。

・学長は、義務化の方針を決定し、繰り返し、教員へ説明を行った。

・結果、リポジトリの公開前に、リエージュ大学は義務化の制度が完成した。

・学長は現在もブログで、OAを呼びかけている。

リエージュ大学の制度運用１

登録は基本的には、著者自身が行い、データについて著者が全責任を負う（著者がシステムの中心）。

このため、可能な限り、システムはユーザフレンドリーに設計されている。

- PubMed, Scopus, Bibtex, Endnote からインポート可能
- 定期刊行物の正確なタイトル・ISSN・査読ステータスを入力時に流用可能
- 研究者情報への自動リンク作成
- doi, ISSN, ISBN のチェック機能
- 登録作業における、ヘルプや入力例

図書館が抽出チェックを行い、誤りを発見することもあるが、その場合も、図書館では修正せず、著者へは修正点を通知するのみ。

リエージュ大学の制度運用２

著者が出版社ポリシーを確認し、アクセスレベルを決定する責任も著者にある。

図書館は、Sherpa/Romeo 等のサイトへリンクを作成するなど確認のプロセスを助けるが、実際の作業は行わない。

評価のため各学部で提出が必要な、研究成果の公表情報を作成するツールを開発。

自動生成される評価シートは、書誌情報、査読ステータス、評価指標（インパクトファクター、h-index、DL回数、等）、全文へのリンク、公開レベル等が表示される。

リエージュ大学の制度運用３

助成機関によるOAポリシーにも対応。

- FP7 Project のOAポリシーにも準拠しており、２重の登録は不要
- FNRS（ベルギーフランス語圏の国立科学研究基金）は、リエージュ大学と同様の公開義務を定めた。これにより各大学のリポジトリからデータはハーベストされる。

管理するだけでなく、集積された情報を様々な方法で、有効に再利用することを助けるためのツール

- 研究成果の公表一覧リスト
- CSV等によるデータエクスポート機能、利用統計
- ウィジェットによるデータ利用
- 制限付き論文について、著者への全文請求メール通知機能

リエージュ大学のアドボカシー

Our way to do was not to advocate the mandate itself, but to advocate the philosophy and the many advantages of Open Access.

私たちがとった方法は、義務そのものを支持させるのではなく、オープンアクセスの多くの利点と思想を支持させるということです。

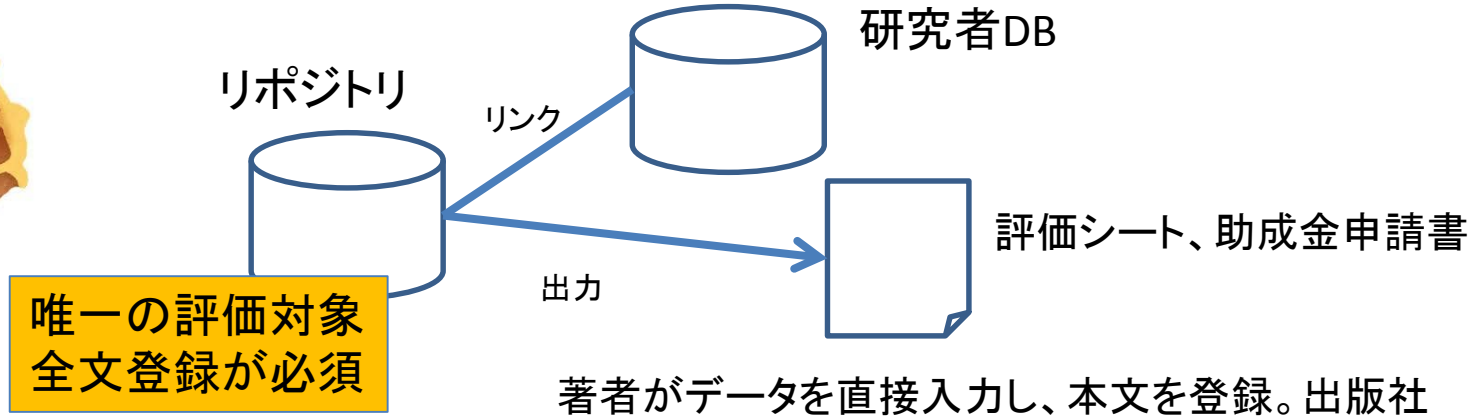
～　トップダウンからボトムアップへ

トップダウンにより制度を実施するが、それはボトムアップ、つまり、研究者がOAを理解し、自らそれを進めていく状況へ発展するためである。

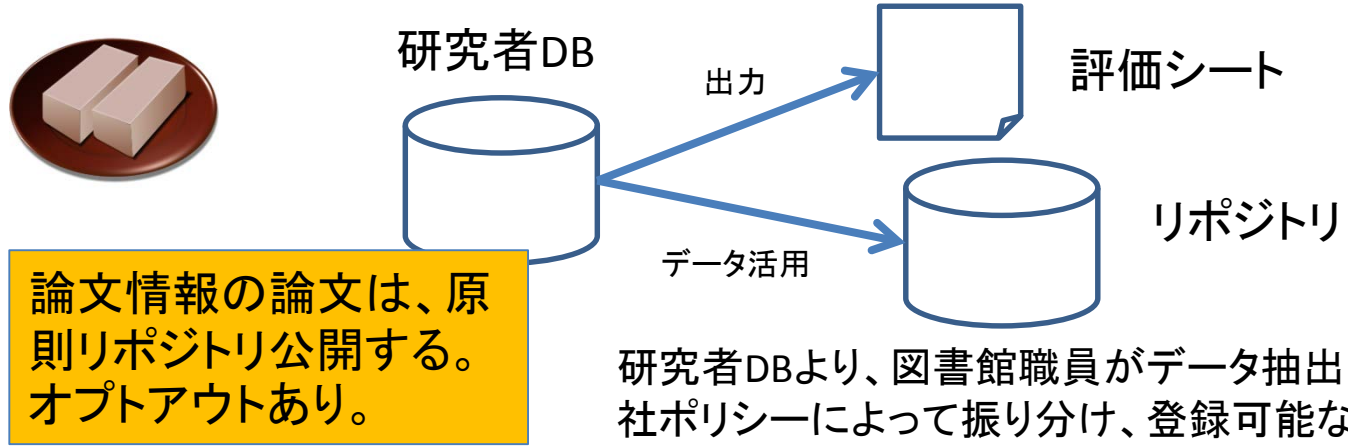
Gold Open Accessへの対応

- “Green first”の方針だが、フェアな Gold Open Accessは支援する (著者にとっても無料か、査読や出版にかかる費用に見合うAPCであること)。ハイブリッドモデルのOA誌は支援しない。
- 著作権を保持できる、あるいはリポジトリOAを許可する出版社と契約することを推奨。
- OA Journalで公開しても、リポジトリ登録は必須。たとえ、リポジトリ公開が禁止される場合でも、公開制限つきで登録をしなければならない。
- リエージュ大学でも、１年前にPoPuPS という無料のOAジャーナルを運営し始めた。 http://popups.ulg.ac.be

比較検討



著者がデータを直接入力し、本文を登録。出版社ポリシーにより非公開・エンバーゴのものあり。



研究者DBより、図書館職員がデータ抽出し、論文を出版社ポリシーによって振り分け、登録可能なもののみ登録

本学の課題

・本文収集の方法

研究者が研究者DB登録　→　図書館の作業　のフローにより公開まで時間がかかる。著者版等の入手にも影響。

・アドボカシーの方法

研究者への負担を最小限にするよう設計されているため、研究者へOA意識を喚起することが少ない。

・制度設計の整理

ex. OA Journalで公開された論文の取り扱い

本文公開制限ありの論文の取り扱い

参考文献

- The Liège ORBi model: mandatory policy without rights retention but linked to assessment processes / Bernard Rentier, Paul Thirion　Berlin 9 Pre-conference Workshop, November 2011
- Where are we today ? The ORBi Experience / Bernard Rentier　Berlin Open Access Conference November 19, 2013
- リエージュモデル / 杉田茂樹　DRF rliaison プロジェクトワークショップ 2012/9/11
- http://www.ulg.ac.be/
- http://orbi.ulg.ac.be/

謝辞

メールインタビューにより、Paul Thirion氏（Head Librarian University of Liege Library）から、多くの情報を提供いただきました。感謝申し上げます。

Illustration by Pierre Kroll

メッセージ

Paul Thirion氏（Head Librarian University of Liege Library）より、日本の大学で、これからOAポリシー検討を始める方へメッセージをいただきました。

- Establish a strong mandate with real and consistent policy is possible. The mandate has to cover simultaneously metadata AND FT.
- Authors are the most important. They have to be in the core of the system. Tools have to be designed for them and not for librarians. The workflow has to be designed to bet as "user-friendly" as possible. Many institutions decide to le librarians do the deposit instead of authors because they fear that the authors will never do it. For us it’s a “false good” idea. Scholars have to be convinced and active in OA development.

And more…